

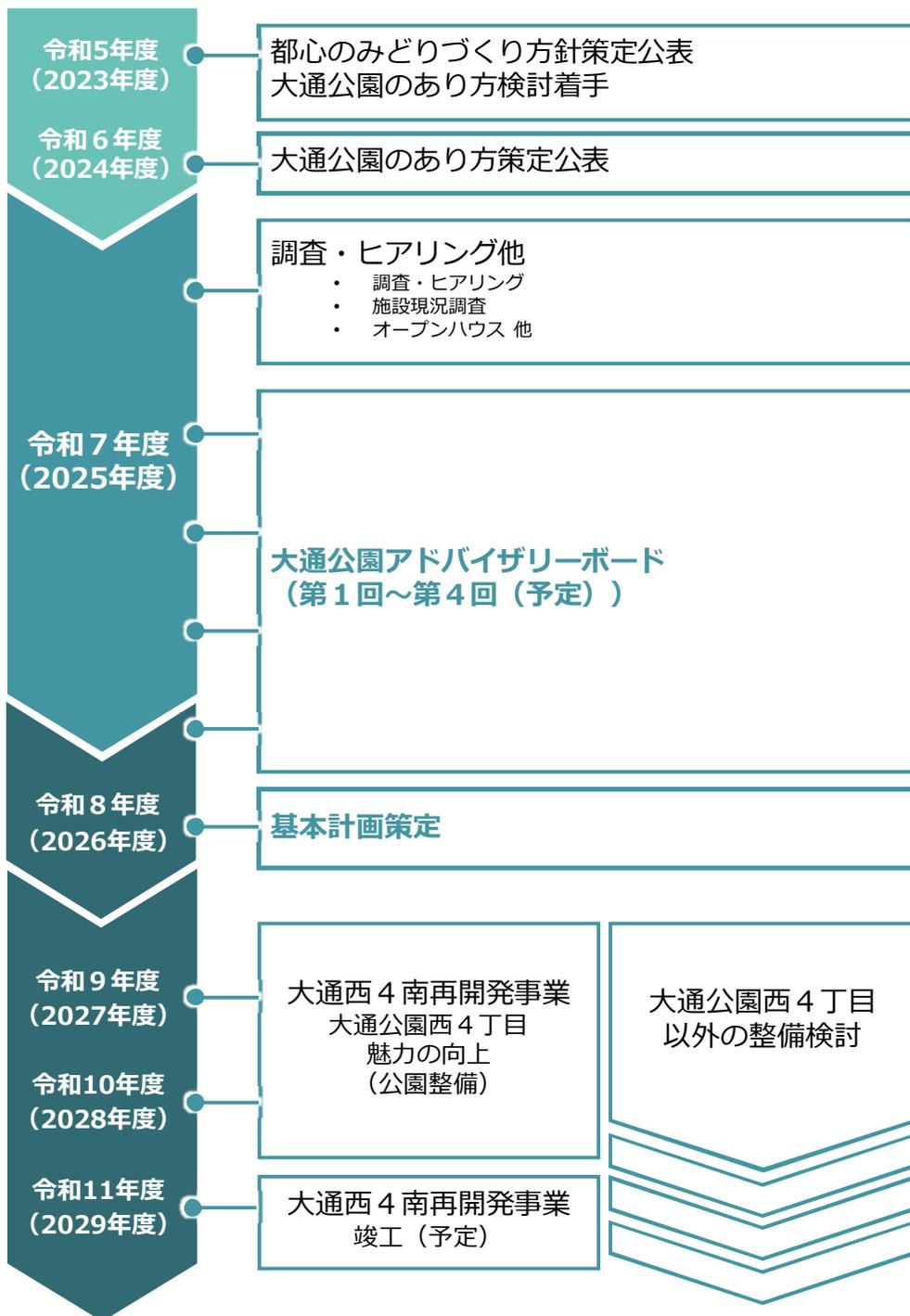
令和7年度

第2回 大通公園アドバイザーボード

令和8年1月16日

札幌市 建設局 みどりの推進部

1. これまでの検討状況と今後の検討プロセス	P1
2. 第1回アドバイザーボードにおける意見等	P2
3. 基本計画の考え方	P3
4. 整備および取組のイメージ	P14



大通公園アドバイザリーボード 議論項目・進め方

令和7年11月20日

第1回 アドバイザリーボード

第2回 報告・議論項目

令和8年1月16日 (本日)

第2回 アドバイザリーボード

<主な報告事項>

- 第1回アドバイザリーボードにおける意見等について

<主な議題>

- 基本計画の考え方について
- 整備および取組のイメージについて

令和8年3月頃 (予定)

第3回 アドバイザリーボード

<主な議題> 基本計画案について

令和8年6月頃 (予定)

第4回 アドバイザリーボード

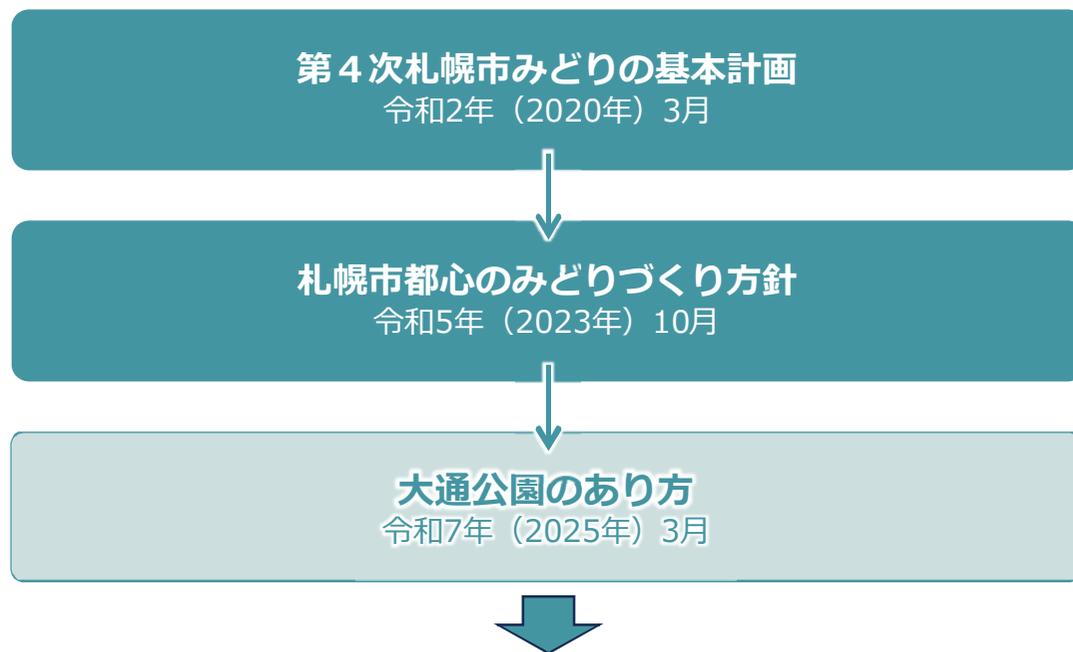
<主な議題> パブリックコメント付議案について

パブリックコメント後、基本計画策定へ

■ 第1回アドバイザーボードにおける主な意見

テーマ	ご意見・ご質問等	事務局回答と今後の方向性	第2回において議論するページ
計画全般	<ul style="list-style-type: none"> 今年の検討は、公園の中に限って考えるのか、時代の流れを踏まえて周辺道路・街区を含め一体的に捉えて考えて良いものなのか、前提となる条件を確認したい。 	<ul style="list-style-type: none"> あくまでも検討の対象範囲は公園内だが、沿道との一体的な空間づくりを考え、どのような効果が沿道に波及するかの観点についても、意見をいただきたい。 	
空間計画	<ul style="list-style-type: none"> 夏と冬で利用状況、日常利用とイベント利用の状況が大きく異なる。季節による使い方の違いを考慮して、季節ごとにどのような魅力を作り出すことができるか、基本計画で言及した方が良いのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 夏はイベントと日常利用を丁目ごとに分担し、冬は雪まつの開催準備撤去の前後で、開放されている現状がある。これらを参考にしつつ、季節に応じたイベントと日常利用のあり方を今後も検討していきたい。 	
	<ul style="list-style-type: none"> スケートボード等を含む若い世代の活動について、公共空間が若い世代の居場所として担う役割は大切である。 各丁目の特徴や時間帯による利用の違いを考慮しながら、使い方や整備内容が検討できると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 大通公園は通行人が多く狭いため、安全管理上スケートボードは禁止としている。 多様な使い方の一例として1日限りで利用を可能とする実証実験を行ったことがある。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 樹林の下に、人が立ち入れる空間を創り出すとあるが、樹木の根へ影響に配慮をするべき。また、この場所は、目の前にベンチが連なっており、人が行きたくなる魅力的な場所にはならないのではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 植樹帯としてみどりを確保すること、沿道とのつながりを生む人の動きを創り出すこと、この2つをどのようにしたら、両立できるのか検討していきたい。 	P.5~7
	<ul style="list-style-type: none"> 大通公園は、直線的な園路がメインとなるが、樹林帯の中の空間には、余程の魅力がないと行かないのではないかと。通り抜けられる動線など、行きたくなる工夫が必要である。 		
植栽計画	<ul style="list-style-type: none"> 樹木について、大きさや腐朽の調査だけでなく、樹木（樹林）の質について、評価が必要である。本数だけを重視せず、樹木を健全に育てながら、魅力をあげるべき。必要に応じ間引くことも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 樹木の質の評価は、重要である。今ある樹木そのものが、どのような状態なのか調査を行った結果を踏まえて、過去の樹木への評価や札幌市の公園樹木に関する指針なども踏まえ、植栽計画を検討していく。 	P.8
	<ul style="list-style-type: none"> 在来種については、樹木だけでなく草本も利用することができるため、雨水浸透花壇にも適用できる。 花壇をすべて集約して良いとは思わないが、例えば、日当たりが悪い花壇は再配置する可能性はある。 	<ul style="list-style-type: none"> 植栽計画や環境計画で検討していく。 花壇の配置が一樣に同じ配置でなくても、メリハリを付けながら魅力ある空間が作れないか検討している。 	P.8
環境計画	<ul style="list-style-type: none"> 樹木があること、または間引くことについて、市民の皆さんにも理解いただくために、CO2固定能力などを可視化して分かりやすく伝えることができる客観的な指標を導入することを提案したい。 	<ul style="list-style-type: none"> 都心部の公園が担う自然環境への貢献具合について、客観的な指標が求められると考えているため、アドバイスを踏まえ、今後環境計画で検討していきたい。 	P.12
管理運営計画	<ul style="list-style-type: none"> 地下から来た時に、上に大通公園があるという認識が少ない。地下にしていると地上の魅力に気づきにくい。沿道との連携だけでなく、地下空間との「見せ方」「つながり」も意識すべきではないかと。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在の計画対象は、地上の公園部分である。地下との連携はソフト面（案内・情報発信）から検討することを想定。周辺建物の更新機会を見据え、今のうちに大通公園の将来像を取りまとめることにより、今後に活かせる基本計画としたい。 	P.13
	<ul style="list-style-type: none"> 地下との連携を考える時に、地下自体の物理的な改修の可能性はあるのか。西4丁目の連携開発を契機に、他の周辺街区への波及効果を期待する。 		
	<ul style="list-style-type: none"> イベントが活発に行われているのに、どうして維持管理の資金が十分ではないのか、疑問を感じた。 整備に関しても、P-PFIや再開発の公共貢献など制約が多い手法に頼らず、イベントで利用している方々などに貢献いただくよう柔軟に検討した方が良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 占用料は市の歳入になるが、施設利用料などと異なり、維持管理に直接還元される仕組みではない。 企業等による貢献については、スポンサーという形で花壇を維持したり、公園施設の整備に貢献いただくケースはある。イベントや沿道の事業者などからも施設整備等に協力いただく方法は色々なケースが想定されるため、他都市の取組なども参考にしつつ、検討していきたい。 	P.13
	<ul style="list-style-type: none"> イベント主催者は、公園の占用料が公園の維持管理のために使われていると思っている可能性があるが、仕組み上、公園の維持管理に直接的には還元されていないということだが、こうした状況や実態は市民に知ってもらわなければならない。 施設の維持や運営の面において質を保ち高めるには、管理運営費用を確保する視点も大切である。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在、市民の方々に関わっていただいている公園の活動は、花壇や公園ガイドなどのボランティア活動が中心。大規模な企画だけでなく、さまざまな方々に参画いただき、少しでも普段と違う日常を楽しむことができる取組も検討していきたい。 	P.13
その他	<ul style="list-style-type: none"> 地域の住民や沿道の企業等の交流の場としての役割も重要である。市民や企業などとの協働の機会を広げるべきで、小さなアイデアや取組が日常を変えていることをしっかりと伝えるプログラムが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 施設計画や管理運営計画で検討していく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> イベント開催中も残されているベンチでは、住民が休憩に利用していた。時間や空間の使い分けができるようにイベントのレイアウトを工夫することで、憩いとにぎわいの両立の可能性を感じた。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 管理運営計画で検討していく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の建物更新の機会に、公園を意識した緑化を促すという働きかけがいく姿勢が良い。例えば、民有地内へのベンチ等の設置やイベントとの連動など、一体的に楽しむことができる空間となるような工夫を促し、協力してくれた民間事業者には、何かが優遇される仕組みを検討してみてもどうか。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 現在も事業者は、札幌市の要請に基づき附置義務駐車場を作り続けている。公園が全部つながってしまえば車が通行できなくなると街が分断されてしまう。公園のどこかをつなげるとしたら極めて慎重に行うべき。 	<ul style="list-style-type: none"> ※ 基本計画をとりまとめる中で整理していく。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 札幌市のまちづくり分野では、歩行者などの回遊性を重視したまちづくりについて検討されており、公園の利用のしやすさと周辺地域のにぎわいを実現するために、歩行者、自動車、自転車などのバランスを取り、どうやっていくのかという話になる。道路を閉じる手法だけでなく、さまざまなやり方を考えるべき。 大通西4丁目の再開発と今回検討している公園の基本計画の関係性を明確にした方が良い。 		

■ 本計画の位置付けについて

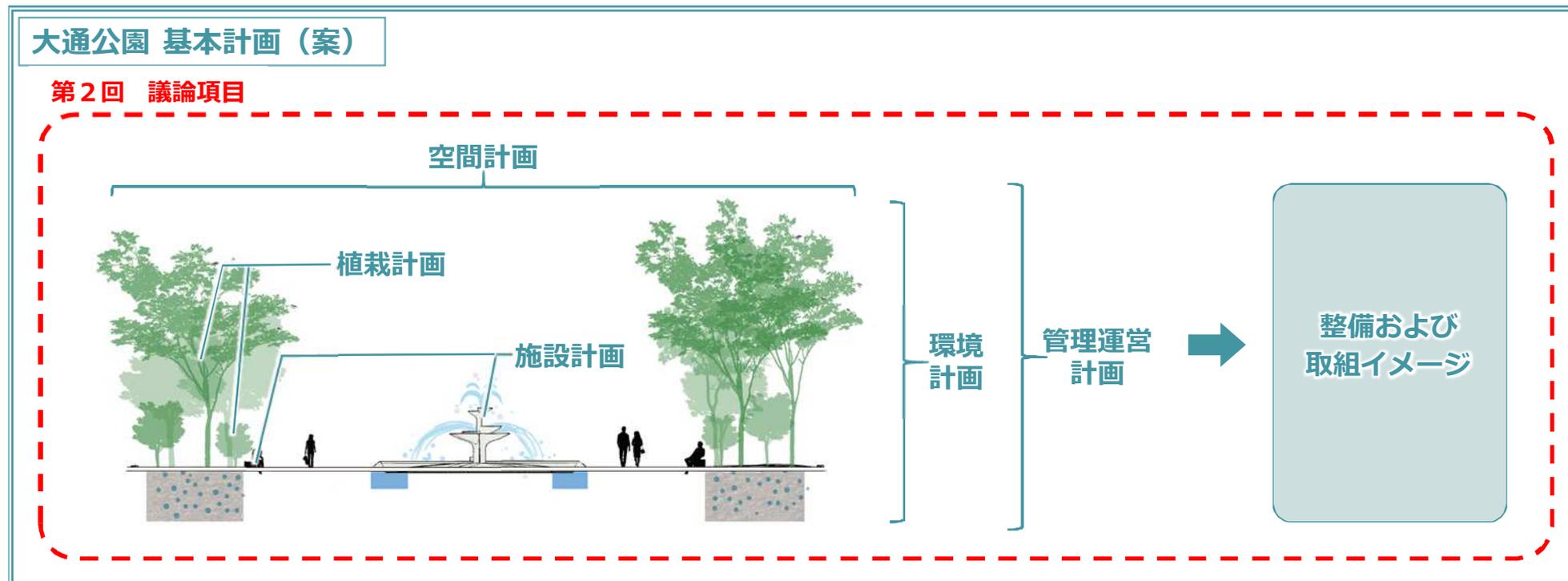


調査・検討事項、現況・課題の確認

- 平成の再整備における考え方
- 公園施設の現況調査
- 樹木調査 簡易診断
- 測量調査
- 市民意見 観光関連団体意見
- 大通公園の現況および課題

その他関連する上位計画等

- Well-Moving City SAPPORO 2045ビジョン（素案）におけるリーディングプロジェクトに設定
- 第3次都心まちづくり計画検討会（および居心地が良く歩きたくなる都心まちづくり検討部会）における議論



■敷地分析・現況把握について

【近隣土地利用】

- 本公園は、官公庁・文教・業務・商業といった用途の異なる街区に囲まれており、丁目構成や南北方向によって土地利用の性格が分化している。**1～5丁目**は**商業施設**、**6・7丁目**は**業務施設**が中心であり、**8～12丁目**では**南側に住宅・教育施設**、**北側に官公庁・文教施設**が多く分布している。

【みどりのネットワーク】

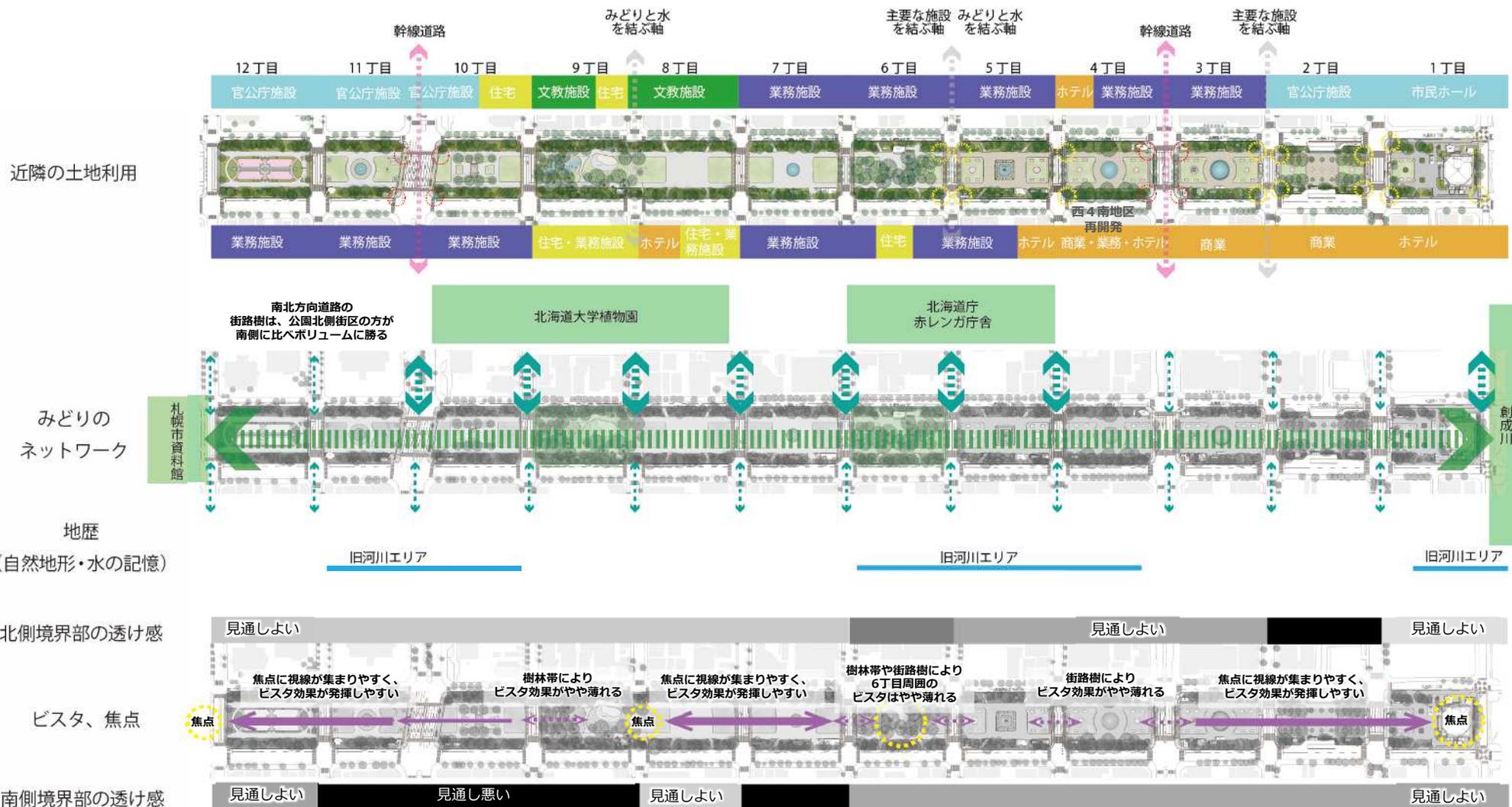
- 東西に連続する豊かな緑の帯を形成。**北海道庁や北海道大学植物園、創成川公園、札幌市資料館のまとまりのある豊かな緑地と隣接することで、公園と連続したみどりのネットワークが形成され、広域的なエコロジカルネットワークの形成に寄与している。**

【地歴】

- 本地区の地歴を読み解く上で、「**メム**」に象徴される**水の存在は重要な要素**となっている。古地図の分析から、旧河川の流路を確認することができ、現在の都市構造の背後にある水系の痕跡が読み取れる。

【南北の透け感（見通し）と東西ビスタ】

- 南北方向においては、丁目ごとの樹木および構造物の配置差により、公園内への見通しに基づく開放性に差異が認められる。**一方、**東西方向を貫くビスタにおいても街区ごとに強弱が確認され、両者が重層的に作用することで、各丁目の特性が現れる空間構造が形成されている。**



■空間計画について（空間構成 / ゾーニング / 景観・デザイン / 動線）

今後の方向性（空間構成・ゾーニング計画）

【第1回アドバイザーボード資料より】

<空間の基本的な構成について>

- ・ 長年親しまれてきた平面を基調としたオープンな空間と、樹木・芝生・花壇からなる構成は、平成の再整備の考え方を継承する。
- ・ 歴史的に形成された樹木空間（西6丁目と西9丁目）まで取り払ってオープンな空間にはしないという、平成の再整備の考え方を継承する。

<各丁目が有する機能について>

- ・ 平成の再整備の考え方を踏まえながら、様々なニーズの変化を尊重した3つのゾーニング（ゾーン分け）とする。
 - ・ 西1～5丁目：札幌を象徴とする公園の顔となるエリア
 - 例）西3丁目では、樹林帯に木陰の居場所を創出し、様々な距離感でイベントの関わりを選択できる。
 - ・ 西5～10丁目：多様なニーズに対応した札幌ならではの活動を体験できるエリア
 - 例）西7丁目では、まとまった面積の舗装広場を設け、イベント利用のしやすい空間を設定する。
 - ・ 西11～12丁目：札幌の歴史と文化を伝承するエリア
 - 例）西11丁目は、駅からの人の流れと、バラ園と資料館との一体感を意識した滞留空間を創出する。

<周辺街区との関連付けについて>

- ・ 公園周辺での建物更新の機会を捉え、大通公園を意識した緑化の検討がなされるよう働きかけを行っていく。

<公園の各丁目間の関連付けについて>

- ・ オープンな空間の連続性を継承し、舗装や芝生・花壇の配置など、隣接する丁目の景観的な連続性と一体性を確保するデザインとする。
 - 例）隣の丁目と、花壇や舗装等の景観構成要素を同調させ、連続的な空間を創出する。

<樹木・芝生・水景施設・花壇について>

- ・ 都心のオアシス機能を果たす公園の樹木・芝生・水景施設を継承する。公園内に等間隔に設置されている各施設については、丁目ごとにメリハリを付け、変化があり、歩いてみたくなる環境に整える。

今後の方向性（景観・デザイン計画）

【第1回アドバイザーボード資料より】

<景観について>

- ・ 大通公園の中でも特に多くの人が往来・滞留する大通公園西3丁目、西4丁目については、大倉山やテレビ塔への眺望を確保する。

<施設デザインについて>

- ・ 街区・道路・公園の一体性をさらに感じる空間とする。
- ・ 公園内の施設は、質感、色彩などに統一感を持ちながら、各丁目の個性を感じる設えにすることや、維持管理上必要な仮設物についても、景観に配慮することなど、大通公園におけるデザインルールを整理する。
- ・ テレビ塔の景観的魅力を最も効果的に引き出すため、テレビ塔全体を周囲の緑とともに見せる「引き」を尊重し、鑑賞しやすい空間を設ける。撮影スポットになっている西1丁目から西3丁目では、視線の高低差を利用した空間や滞留できる空間を検討する。

【関連する上位計画における大通公園の位置付け】

大通及びその周辺のまちづくり方針
— 札幌都心はぐくみの軸強化方針 —

●はぐくみの軸のまちづくりの理念

- ・ 象徴性の継承と新たな価値の創造～150年の歴史ではぐくまれてきた価値を継承し、100年先の未来に向けて新たな魅力と活力を“はぐくむ”～

●大通公園エリアの強化の考え方



- ・ はぐくんできた価値と新しい価値が融合した世界に誇れる価値を創造する象徴的な拠点をはぐくむ〔西Aゾーン〕
- ・ 居住とビジネスが共存し、まちに開かれた沿道空間と大通公園に多世代が集う都心の新しいライフスタイル・ワークスタイルをはぐくむ〔西Bゾーン〕
- ・ 都心西側の回遊拠点を形成し美しいみどりや歴史・文化芸術を活かした多様な交流をはぐくむ〔西Cゾーン〕

出典：大通及びその周辺のまちづくり方針—札幌都心はぐくみの軸強化方針—令和5年（2023年）10月（札幌市）を参考に作成

今後の方向性（動線計画）

【第1回アドバイザーボード資料より】

<主要な園路について>

- ・ 平成の再整備の考えを踏襲し、主要園路は直線的な線形とし、快適な歩行ができる幅員とする。

<逍遙的なみどりを感じる動線について>

- ・ 南北の樹林帯の中に、人の居場所となり、歩行を楽しむことができる逍遙的空間を重ね合わせる。2mの歩道部分を含む道路空間については、道路部局やまちづくり部局と連携し、利活用等について検討を進める。

<その他の園路について>

- ・ 管理用車両やイベント用作業車両の動線については、利用状況を踏まえた上で、効率的な配置とする

■空間計画について（空間構成 / ゾーニング / 景観・デザイン / 動線）

空間計画の主な取組

<凡例>
太字：議論のポイント

- 本計画では、敷地に内在する**東西方向のビスタ**を大通公園の歴史的な空間構造として位置付け、その継承と強化により、公園全体の景観的連続性および象徴性の向上を図る。
- 水と緑による一体的な環境を基盤**とし、各丁目の空間特性および周辺街区の土地利用を踏まえたゾーニングを行い利用の多様性と空間の一体性を両立した環境形成を行う。
- 雨水の貯留・浸透機能の強化**や**既存樹林帯の健全な生育環境の保全**を通じて、環境負荷低減と環境性能向上を図る
- 上記の考えの基、**樹木下の滞留空間・適切な植栽剪定による開放性の高い角部の創出・東西ビスタを強調するベンチの配置**等により、歴史性と象徴性、街とのつながり、自然環境を活かしたグリーンインフラ機能が重なる特徴ある都市公園の形成を目指す。

① 樹林の透け感（見通し）

- 樹林帯の中木や下枝を整理し全体として**見通しを確保**する方針とする。特に公園の顔となる1~5丁目では、**南北の商業活動と視覚的につながるよう、透け感を高める**。
- 6~8丁目ではイベント時のにぎわいが南側街区へ波及するよう樹林越しの透け感を確保する。
- 9丁目は子どもの遊び空間として外部からの視線を抑えた透け感の低い空間とする。



出典：グリーンインフラの事例（国土交通省）

② 街に向く滞留空間

- 街に向かってにぎわいがにじみ出す滞留空間を配置**し、公園と都市活動の接点を形成するとともに、イベント時および日常時の双方に対応した継続的な利用を可能とする。
- 周辺に商業施設が集積する3~5丁目および7~8丁目においては、滞留機能を重視した空間構成とする。



出典：道路活用実験「みつけるみなぶん」（横浜市）

③ 開放性の創出（街区角部）

- 公園の顔となる1~5丁目の**街区角部**では、**視線の抜け**や人の流れを踏まえた**開放的な空間を確保**し、街路から公園内部への連続性を高め公園への導入性の向上を図る。
- 人や車の通行量が多いメイン通り沿いに位置する2~3丁目および10~11丁目では、街区角部への円滑なアクセスを重視するとともに、公園の存在が認識されやすい空間構成となるよう、視認性の向上を図る。



出典：都立日比谷公園再生整備計画（令和3年7月）（東京都建設局公園緑地部）

④ ビスタ（視線のつながり）の強化

- レガシーである東西**ビスタを導く空間構成**とし、公園全体の象徴性の向上を図る。
- 視線の集約点を整理して強弱を明確化し、空間体験にメリハリを与える。特に街区間の街路樹によりビスタが弱まっている丁目では、景観軸の強化を行う。
- あわせて、東方向および西方向それぞれの視線特性を分析し眺望を楽しめる滞留空間を適切に配置する。



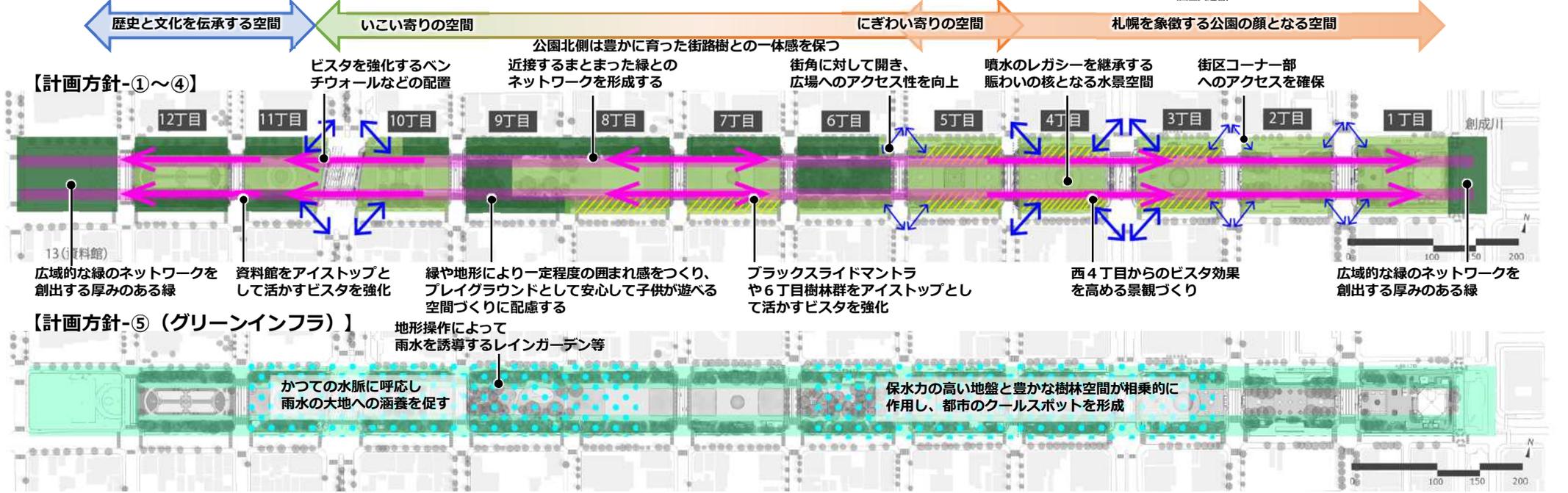
出典：良好な道路景観と賑わい創出のための事例集（平成26年3月）（国土交通省）

⑤ グリーンインフラ（水景/雨水貯留・浸透基盤等）

- かつて河川が存在したエリアの特性を顕在化させつつ、プレイグラウンド等と連携したレイナーデンを整備し固有の景観形成を図る。
- 南北の樹林帯を中心に雨水貯留・浸透機能を導入し、水循環の再生と水の気配を感じられる空間を形成する。
- 滞留施設と連動したクールスポット**を整備することで、都市環境の改善および利用者の快適性向上に寄与する。



出典：グリーンインフラの事例（国土交通省）



■空間計画について（空間構成 / ゾーニング / 景観・デザイン / 動線）

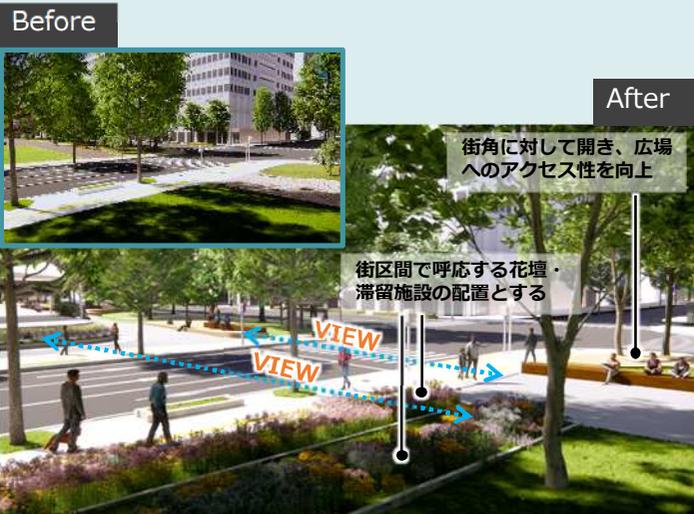
基本計画の考え方

<凡例>
太字：議論のポイント

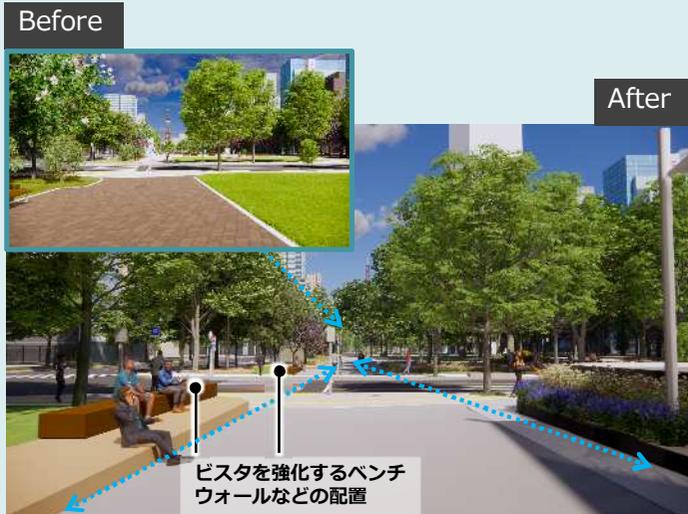
【大通公園の持つレガシーの強化】

- 大通公園の重要なレガシーの一つである直線的な園路およびビスタを継承し、**ランドマークであるテレビ塔などへの視線のつながりを確保・強化**する。また、南北の樹林帯を丁寧に保全しながらその豊かさを身近に感じられるよう、**樹林内に逍遙的景観を感じられる憩いの滞在空間を創出**する。

【具体的な取組のイメージ】



道路を挟んだ街区間で花壇・ベンチウォール等の設えを合わせ、つながりを強化。併せて**沿道からの視認性・アクセス性を向上**させる。



東西方向の園路において、**テレビ塔へのビスタ**（視覚的なつながり）を、**並木・舗装・ベンチ等により強化**する。

【周辺街区とのつながりの創出】

- 街区角部の開放性や南北樹林帯の見通しを確保**し、沿道および周辺街区との連続性を高めることで、見通しがよく回遊と滞留が生まれるにぎわいのある空間を形成する。**沿道側を意識した滞留空間の整備により**、街区・道路・公園の一体性を向上させる。



テレビ塔全体を周囲の緑とともに見せる**「引き」を尊重**し、鑑賞しやすい空間やテレビ塔を背景に多様なアクティビティを体験できる場を形成する。



樹林帯内では林床の裸地化や露出根の増加が顕在化しており、滞留空間として機能しておらず、近接街区とのつながりが作りづらい状況である。

公園内からの視点



樹林環境に配慮した**ウッドデッキ等**を導入し、安全性・滞留性の向上と健全な樹木生育環境の再構築を図ることで、**南北のつながりを創出**する。

沿道（公園外）からの視点



南北樹林帯は道路を挟んだ位置からも**公園内の活動・にぎわい等が身近に感じられる空間となる整備計画**とする。

■ 植栽計画について

今後の方向性

【第1回アドバイザリーボード資料より】

- ・ 人通りの多い丁目や回遊性を創出したい丁目では、**角部の視認性に配慮した既存樹木の剪定等**を実施する。
- ・ 緑のボリュームを維持しつつ、**見通しのよい緑**を創出する。
- ・ まちの日常風景が重なり合うよう、**植栽と休憩施設等を活用し、外向きの空間**を創出する。
- ・ **周辺街路樹を意識した樹木を選定**し道路・公園との一体性を創出する。

- ・ 大通公園の重要な要素である**芝生と花壇は継続**。公園内に等間隔に設置されている各施設については、**丁目ごとにメリハリを付け、変化があり、歩いてみたくなる環境**に整える。
- ・ **芝生の植栽基盤の改善を行う**とともに、**芝生保護材や舗装材を適切に配置**して、踏圧による損傷を防ぎ、**生育を良好に保つ**。
- ・ **みどり豊かな憩いの空間を維持・継承**するため、過密状態にあり被圧され健全な生育が見込めない樹木の間引きや、**安全性確保を目的とした健全性の低い樹木の伐採**を行う。

基本計画の考え方

【既存樹木の取り扱いについて】

- ・ 樹木医による樹木調査結果の**一例として、11丁目南東角のアカナラ群が込み合っており、生育環境が悪化している**という診断結果が出た。
- ・ そのうち、H/D（形状比） ≥ 50 （≒細長い形状）のアカナラについては、**倒木・立ち枯れの危険性も高いことから間伐・伐採の検討**を行う。

現状



西11丁目のアカナラ群の様子

- ・ 大通公園においては**シンジュやネグンドカエデ**などのように**生長が早く、悪条件下でも生育が可能な樹種が多用**され、樹木が密植気味に植栽されてきた傾向がある。
- ・ 更に将来のあるべき姿を予測・検討し、**生長などによる変化を見越した維持管理**を行うことが安全面・コスト面からみても目指すべき方向性であると考えられる。
- ・ 樹木の枝の計画的な剪定、支障が予想されるような**樹木の移植・伐採、早生樹種の樹種更新**などの対応が考えられる。



11丁目の南東角

【花草園の時代から続く、市民・企業参加型の花壇の継続と魅力の向上】

- ・ 公園全体に満遍なく配置されている**花壇・芝生を街区ごとにメリハリをつけ、空間の広がり**と**魅力を感じる環境を整える**。
- ・ 街区間で呼応する**花壇配置により、丁目を越えて連続して感じられる景観として整え**、歩くほどに公園全体の一体感が伝わる構成とする。あわせて**沿道側では、各丁目の特性に応じたバリエーション豊かな花壇**を街区のフロンテージ（街への表情）として際立たせ、**通りからの見え方に配慮した「街区の顔」をつくり出す**。

現状



現在の大通公園

【具体的な取組のイメージ】



沿道に面して、空間の奥行きと賑わいを演出する立体花壇

分散花壇の集約による街区のフロンテージ演出

フラワーディスプレイによる顔づくり



空間の広がりを感じられる芝生広場



【多孔質目つ有機質な礫層を基盤とした保水性の高い芝床】

- ・ 踏圧で締め固められ生育環境の悪化が起きていた芝生広場は、平成の再整備時に深さ50cm程度までを火山礫に置き換えられた。保水材と有機質を混入された芝床として再生されており、先駆的なグリーンインフラとしてみる事ができる。**芝生広場では引き続き上記の芝床改良施策を継承し、良好な芝生環境の維持・強化を図る**。

【見通しのよいみどりの創出】

- ・ 南北の隣接街区に対して南北の境界線に列植された高木や中低木が一部視線を遮っている。高木や中低木の樹冠が重なりながら視線を遮る4-5mクラスの亜高木を適度に関引き、**緑のボリュームを維持しつつ透過性の高い緑を創出**することで、**各丁目の特性に応じた公園内外の見通しを創出**する。

現状



目線高さに枝が伸びている樹木の一例

【外向き空間の創出について】

- ・ **適切な緑量の調整や、樹林帯にデッキなどの人の居場所づくり**をおこなうことで、隣接街区との関係性を能動的につくり、まちの日常風景が重なり合う**外向きの空間を創出**する。

【具体的な取組のイメージ】



外向き空間のイメージダイアグラム

<凡例>
太字：議論のポイント

■ 施設計画について(水景施設)

今後の方向性

【大通公園のあり方より】

- 都心のオアシスである水景施設については、現状の公園利用や持続可能な管理運営にも配慮し、施設数や配置の見直しを行いながら、新たな形で水に触れ合えたり、水との距離感が選択可能な設えを検討する。

【第1回アドバイザーボード資料より】

- 親水機能と景観機能(目や耳で楽しめる)を設けるほか、**夜も楽しめる機能、快適性の向上、環境負荷の低減に寄与する機能**を設ける。
- 多様な水の見せ方、かかわり方で**多彩で印象的なシーン**を創出する。
- 園路へ水の大幅な飛散などの不具合、維持管理や修理・更新にかかる費用、空間コンセプトとの整合性などを総合的に検討し、メリハリを付けた施設配置とする。

基本計画の考え方

<凡例>
太字: 議論のポイント

- 公園の顔として、また賑わいの中心となる**2~5丁目の主要な水景施設は継承し**、全体の空間コンセプトや持続可能な管理運営に配慮した**メリハリをもった施設配置**へと見直しを図る。
- 3・4丁目は、円形の平面形状や中央のモニュメント等を継承しながら、水との関わり方や距離感を選んで楽しめる水景へと再構成し、変化を持たせた魅力の向上**を図ることで、周辺の賑わいを牽引する。時間や季節など場面に合わせ演出を切り替えることのできる水景とし、**訪れるたびに異なる風景を楽しむことのできる話題性とイベント時の広場利用にも対応する柔軟性を両立させる**。
- 9丁目は子供に親しまれている親水性の高い水路を活用し、プレイグラウンドとしての機能を継承する。
- 10・11丁目は、大通公園の東西軸が生む連続的な景観と回遊性の中、都市のにぎわいを受け止める東側に対し、西側は滞留・休息の需要が高く、自然の変化を身近に感じながら環境価値を最大化するみどりと水の拠点として整備する。中央部はイベント時の広場利用にも対応する柔軟性を確保しつつ、**レインガーデン(雨水を一時貯留し、時間をかけて地下へ浸透させる植栽空間)を整備し**、雨水循環によって現れる自然がつくる水の風景へ転換することで、かつて水脈が通っていた札幌の大地の履歴を想起させると同時に、暑熱時にはクールスポットとして機能し、日常とイベントの両方で使いやすい場を創出する。
- 2丁目の壁泉および12丁目のカナルは鑑賞用の高い水景施設として、平成のリフレッシュ工事で整備されたコンセプトを踏襲し現状のまま継承する。
- 土地利用の観点から6丁目、7丁目及び11丁目の噴水については、多様な使われ方の空間とし見直しを図る。廃止も含めて検討する。

【具体的な取組のイメージ】



【各丁目における水景施設の考え方】

9丁目	5丁目	4丁目	3丁目
既存遊水路継承 	水盤 静かに、穏やかに行 むことのできる水盤	ポップジェット噴水 薄層水盤 ミスト 	ポップジェット噴水 薄層水盤 ミスト
親水性: 非常に高	親水性: 低	親水性: 中	親水性: 非常に高
鑑賞性/視認性: 中		鑑賞性/視認性: 高	鑑賞性/視認性: 高

【3、4丁目水景施設の参考イメージ】



久屋大通公園 ©Forward Stroke inc.

高輪ゲートウェイ駅 Gateway Park

グラングリーン大阪 サウスパーク

■ 施設計画について(ベンチ等休憩施設)

今後の方向性

【大通公園のあり方より】

- 多様な過ごし方を選択できるように、樹林帯内へのテーブル・ベンチの配置や、ほど良い高低差の創出などを検討する。
- 様々な距離感でイベントとの関わりを選択できるように施設計画により、公園利用者の快適性の向上を図る。

【第1回アドバイザーボード資料より】

- 公園施設は、**ユニバーサルデザインを原則とし、イベント開催時や日射や降雪の状況等を考慮した配置や形状とする。**
- ベンチ等の休憩施設は、**各丁目の特色や利用者の過ごし方に応じ機能に変化を持たせ、動かせるベンチやテーブルベンチなども設ける。**

基本計画の考え方

現状



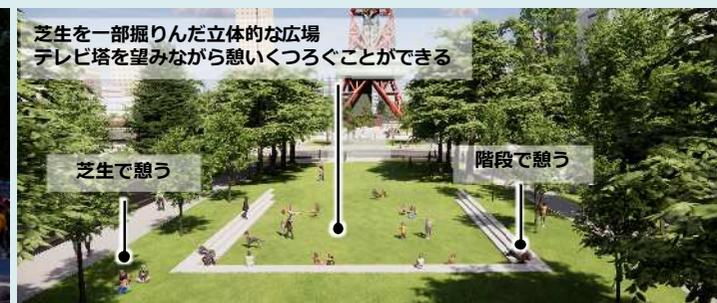
- 自然な印象をもつ一方、地表を這う樹木の根などが人を寄せ付けない荒れた林床イメージを生み出しており、滞留スペースとしては機能しておらず、近接街区とのつながりは希薄。
- 踏圧やイベント時のプレハブ設置により、土壌が固結し通気性や浸透性能が低下し、生育環境の悪化が進行している可能性がある。

【具体的な取組】

- 樹木の根系に配慮した浮き床構造の舗装(ウッドデッキ等)を導入**することで、既存樹林を守り受け継ぎながら、利用者がその豊かさを身近に体感できる樹林帯へと更新する。
- 緩やかな起伏・高低差をつけ、休憩・語らい・眺望など公園の多様な使われ方を誘発**し、樹林内を含めた日常利用の促進を図る。**段差にはスロープ動線を併設**し、車いすやベビーカー、高齢者など誰もが無理なくアクセスできるバリアフリーな空間とする。
- インクルーシブ(誰もが利用しやすい)な空間で、自由に居場所を選べる環境を整える。**

<凡例>
太字: 議論のポイント

【具体的な取組のイメージ】



■環境計画について（環境計画）

今後の方向性

【第1回アドバイザリーボード資料より】

- ・ 大通公園全体を通して貯留浸透機能が高い植栽・舗装基盤を積極的に整備する。
- ・ 積極的な自然資源の循環利用によるCO2固定・削減を推進する。
- ・ 緑陰により気温上昇を抑制しクールスポットを創出するとともに、ヒートアイランド現象の緩和に寄与する。

- ・ 近隣の生物ネットワークに寄与するみどりの拠点として整備する。（生物多様性配慮、自然環境・学習の場等）
- ・ 今ある健全な緑を守るために、根系誘導を促す舗装・植栽基盤を整備する。
- ・ 高木は、札幌の気候に適した在来種などを植えることで、その地域に生息する鳥類や昆虫類の生息環境の創出等に寄与する。
- ・ 平成の再整備における浸透式排水施設の考えを踏襲し、下水道管の負担軽減を図る。

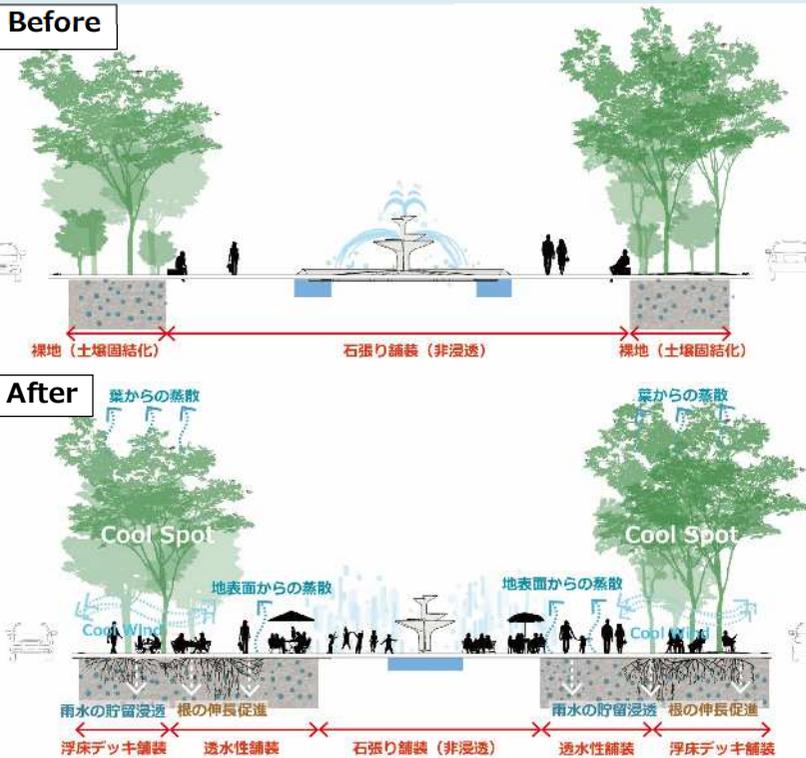
基本計画の考え方

- ・ 芝生地、樹林地、水辺など多様な環境を維持し、公園周辺の緑と連続した鳥類や昆虫などの生き物の生息環境を保全することで、エコロジカルネットワークの形成を図る。特に西8丁目から西10丁目北側には北海道大学の植物園が街区を挟んで立地し、西5・6丁目には池を含む北海道庁の緑が存在することから、これらと連続するみどりの拠点として整備を行う。更に、まとまりある緑地を確保し、生き物の行き来できる場所（エコトーン）や草地～低木～高木の階層構造をつくることで、生息環境の質を高める。

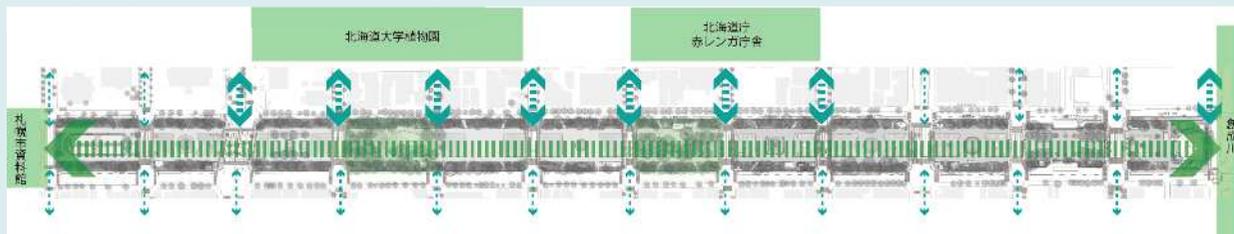
- ・ 在来種草本・乾燥耐性を持つ植物を用いることで、年間の灌漑水使用量削減を図る。また、雨水の貯留・浸透を促進する地盤面の形成を推進し、豊かな緑陰との相乗効果により、都心におけるクールスポット（熱中症対策として効果的な緑地）を創出する。これにより、ヒートアイランド現象の緩和を図るとともに、日常的に滞留したくなる快適な空間づくりを実現する。
- ・ 既存樹木の根系の誘導および拡張を促す耐圧舗装基盤などを検討し、舗装部における根上がりや倒木の予防、ならびに樹勢の回復を図ることで、健全な樹林環境の保全を行う。

<凡例>
太字：議論のポイント

【具体的な取り組みのイメージ】



【みどりのネットワークのイメージ】



【グリーンインフラ・学び・環境配慮】

- ・ 環境性能の評価：レインガーデン等による雨水の滞留や浸透の効果、樹木等の植栽によるCO2固定量算出、地表面温度や風の流れに配慮した空間整備、鳥類や昆虫などの生き物の生息状況等について、公園が持つ環境性能の評価を検討
- ・ 学びの機会の創出：気候変動対策等について公園が持つ環境性能を可視化し、公園の価値向上を伝える環境を学ぶ機会等の検討
- ・ 環境に配慮した素材の利用
 - ・ 水資源保全のための水使用量の削減や、国産木材・再生材の使用などの自然資本保全に配慮した公園づくり
 - ・ 伐採・剪定で発生した木材等を積極的に再利用することにより、自然資源の循環利用を推進
 - ・ 自然素材を活かした子供の遊び場空間を整備することにより、自然にふれあい気づきを得る学びの空間を創出
- ・ 環境に配慮した利活用：公園利活用時における植栽への配慮継続と環境に配慮した持続可能なイベント運営等を促す仕組みの検討



出典：グリーンインフラの取組（町田市）

■ 管理運営計画について

今後の方向性

【第1回アドバイザーボード資料より】

<持続可能な公園の維持管理・運営と民間活力の導入可能性の検討>

・ 維持管理運営について

- ・ 管理運営コストの分析による、課題と民間活力を導入できる伸びしろ（ポテンシャル）の洗い出し
- ・ 芝生や花壇を持続可能な魅力的なものとするための配置、形状、運営手法の検討

・ 社会貢献・市民または企業との協働について

- ・ 活動状況や活動メニュー等の分かりやすい情報発信の強化
- ・ 多様な担い手が参加しやすくなる活動支援の検討
- ・ 寄付などによる貢献メニューの充実

・ 公園利用（一般利用・占用利用）について

- ・ 「いこい」と「にぎわい」の両立と公園利用者の快適性・利便性の向上のために、現在の利用ルールと占用許可の規準の内容やプロセスの確認・整理を行い、その結果を反映した管理運営計画とマネジメント体制を検討する。
- ・ 市民主体による公園の利活用ができる仕組みを検討する。
- ・ すべての公園利用者の利用環境の向上のために、四季を通じた見どころや施設情報などの情報発信目的の明確化と実施状況の整理、ツールと手法（デジタル化等）を検討する。

<公民連携による公園整備について>

- ・ 沿道ビル等の更新機会を積極的に捉え、公園の整備や寄付等の民間による貢献を引き出すための具体的な取組を行う。
 - ・ 民間活力導入の目的（賑わい創出、サービス向上、財源確保）に照らし、公園で開催される既存のイベントや周辺環境との相乗効果という観点から大通公園に適した民間活力導入手法を分析し、検討する。
- ⇒ 手法例：指定管理者制度、公募設置管理制度(P-PFI)、民間開発に伴う公共貢献、設置管理許可、占用許可（イベント）等

基本計画の考え方(ボランティア・公民連携について)

【民間活力導入の代表的な手法】

- ・ 大通公園の特性や位置づけを踏まえ、目的と手法ごとの課題等を整理し検討を行う。
- ・ 民間活力の導入目的例（○印が大通公園に該当）
 - 公園の利便性や魅力の向上
 - 持続可能な管理運営財源の確保
 - 整備費用等の確保
- ・ その他、にぎわいの創出、未利用地の活用等がある

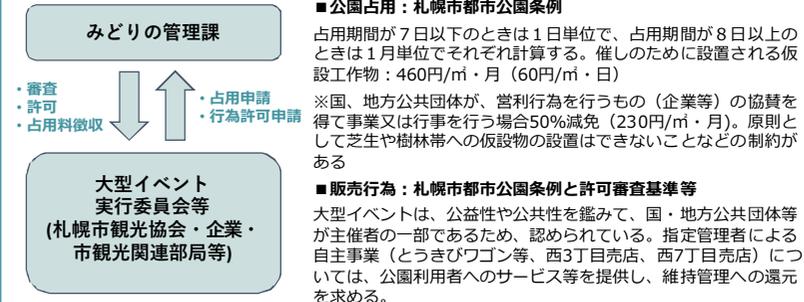
代表的な手法	内容	利便性 魅力向上	コスト 削減	市の収入増 (公園へ 直接還元)	大通公園における課題等
占用許可	・ イベント等による利活用	○	-	△	・ 一定程度利用が進んでいるため、ニーズや目的を捉えた新たな利活用の可能性検討 ・ 利用金額の妥当性検討
管理許可、 設置管理許可 (最大10年間)	・ 収益事業としてイベント等を行い独立採算により公園を運営	○	△~○	△	・ 既存のイベントとの調整 ・ 指定管理制度との調整
公募設置管理 制(Park- PFI) (最大20年間)	・ 特定公園施設の改修費の負担が一部軽減。建蔽率の特例措置（上乘せ）あり	○	△	△	・ 既存イベントとの調整 ・ 施設規模によりコスト削減幅は小さくなる
寄付等	・ ネーミングライツ ・ 企業版ふるさと納税 ・ クラウドファンディング ・ 物品等	-	-	△~○	・ 既存イベントとの調整 ・ 寄付を募る仕組みや体制の調整

【イベントによる公園の占用利用について】

現状

- ・ 指定管理者制度等による民間活力を活かした維持管理・運営を実施。
 - ・ 大通公園は様々な利活用に柔軟に対応できる広場と芝生を主体とした公園であり、年間を通じ園内全域で様々な大規模イベントが開催されている。
- ⇒ **大通公園では既に多くのイベントが開催されており、時間的にも空間的にも、活用が行われている。**引き続き、イベント等の様々な利活用に柔軟に対応できるような設えとする必要がある。

(参考) 現在の公園占用等の仕組みについて



【社会貢献・市民または企業との協働について】

- ・ 多様な担い手が参加しやすくなる活動支援の例

福岡市一人一花運動診断

⇒ 活動したい人や企業の方々に分かりやすく情報を発信し、気軽に情報にアクセスできることにより、活動メニューのマッチングが図られている。



出典：一人一花運動（福岡市）

基本計画の考え方(公園利用について)

【案内サイン・地下とのつながり強化】

- ・ 大通公園の形状や特性を踏まえ、公園として発信する情報（施設の位置、歴史などの解説、季節の花、催し情報等）の整理、発信する手法（説明板、パンフレット、HP等）の検討
- ・ 札幌市における公共サインの基本的な考え方にに基づき、地下鉄・地下街・地下歩行空間などとのつながりを分析し、分かりやすく、エリアとして統一感のあるサインを検討する。



出典：渋谷区公共サインガイドライン（渋谷区）

■取組イメージ (西4丁目)

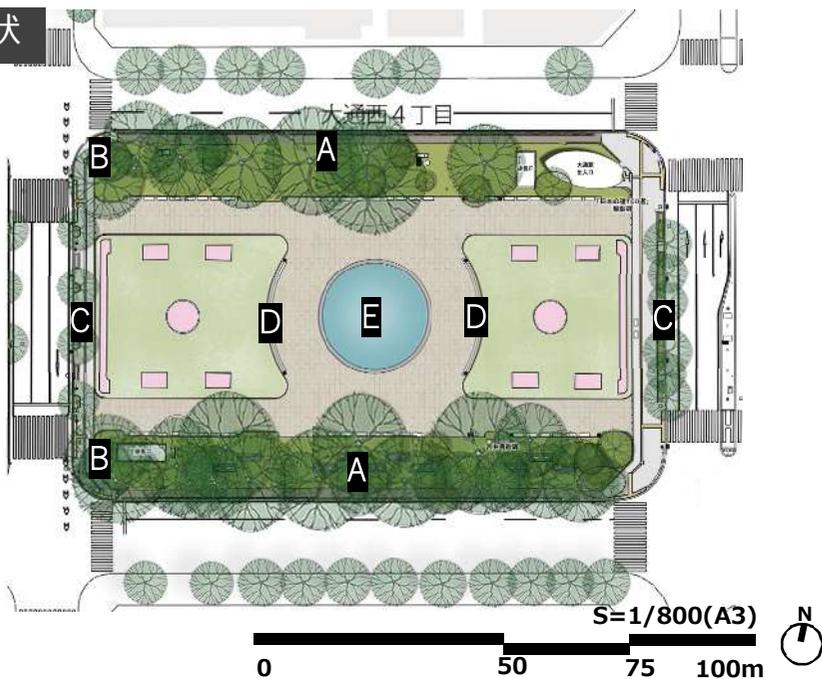
はじめに

大通公園西4丁目に面した、大通西4南地区第一種市街地再開発事業が着工
 今後、再開発事業の公共貢献の一環として、大通公園の魅力向上を実施し、西4丁目を先行整備予定

①公園の歴史上の使い方の振り返り

- 1876年(明治9年)：西3・4丁目の2区画に西洋の花弁を植え「大通花草園」と称した
- 1901年(明治34年)：大通逍遙地を整備
- 1911年(明治44年)：西3～7丁目に長岡安平の設計に基づく公園化整備完了
- 1916年(大正5年)：西3～4丁目に戸部侑による花壇整備
- 1946年(昭和21年)：占領軍により野球場造成
- 1968年(昭和43年)：北海道銀行による噴水寄贈
- 1991年(平成3年)：西4丁目の再整備工事完了

現状



②現状課題

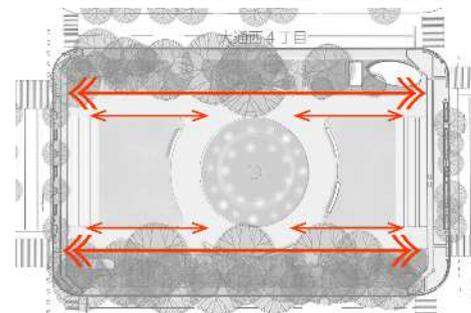
- A** 南北樹林帯において、ベンチを設置しているが、地表を這う樹木の根などが人を寄せ付けない荒れた林床イメージを生み出しているため、安全性・滞留性が低下している。
- B** コーナー部の植栽が繁茂し閉鎖的であり、周囲からの視認性が低い。
- C** 丁目間にある街路樹により、視線方向に沿った抜けが確保されにくい。
- D** 芝生と水景の間にあるベンチによって芝生と水景の利用が分断されている。
- E** 水景施設の老朽化に加え、噴水としての鑑賞性が高い一方で親水性には欠けている。

③空間コンセプトについて

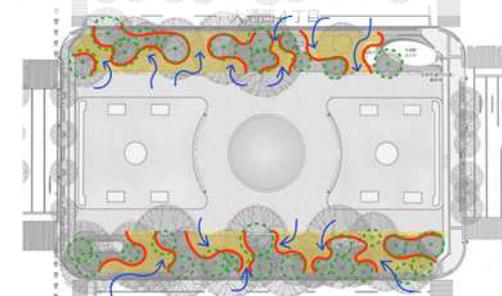
<凡例>
 太字：議論のポイント

- ・ 1・2丁画に共通する再整備コンセプトである「ビスタの強化」、「豊かなみどりを守り、活かした憩い空間の創出」、「まちとつながる景観形成」、「季節を彩る花による街区の顔づくり」に加え、**西4丁目においては都心のオアシスとして、賑わい形成の中心的役割が期待される水景施設のリニューアルを行う。**
- ・ 現状の円形噴水による中心性の高い空間構成やそれを囲むベンチ等の滞留施設が生み出している**場の共有感・一体感を醸成する空間づくりの考え方を継承。**一方で、ベンチ等の立ち上がり部が芝生広場と水景エリアの利用を分断することがないように、**広場中央部に設置する滞留施設の仕様や配置に十分配慮する。**

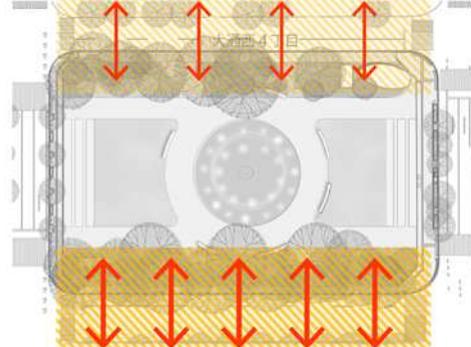
1. レガシーとしてのビスタの強化



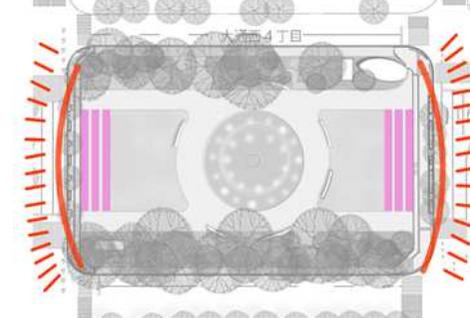
2. 豊かなみどりを守りながら、それらと関わることのできる居場所を重ねる



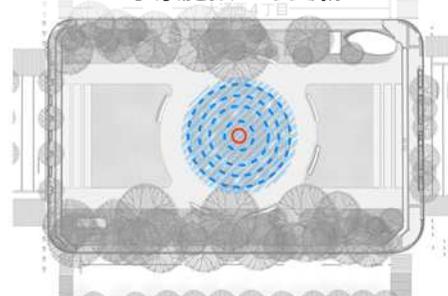
3. 沿道や交差点部とのつながりの創出



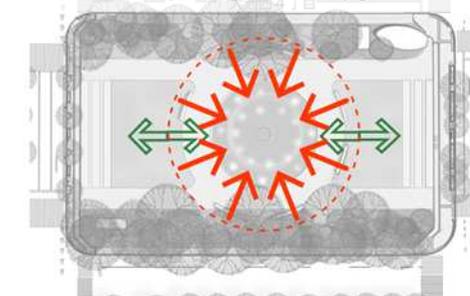
4. フラワーディスプレイによる顔づくり



5. 親水性、鑑賞性、可変性を兼ね備えた水景施設への更新



6. 場の共有感や一体感を生む中心性のある場づくり



■取組イメージ (西4丁目)

